

### 2.1.3 水害の歴史

東に鈴鹿山系、西に琵琶湖が位置するという地形的な要因があり、圏域内河川のほとんどは延長が 20km 未満となっています。また、勾配が急で、土砂流出が激しく、川沿いの集落への水害被害を防ぐために、堤防の嵩上げ工事を繰り返し、天井川が形成されています。

日野川中流左岸地区では、戦後幾度とも水害に見舞われました。

昭和 28 年 9 月においては、24 日から断続的に降り続いた雨に加えて、25 日 17 時頃、台風 13 号が三重県志摩半島に上陸したことにより激しさを増しました。野洲市小南では古川地先と光善寺川の合流地点の二箇所が決壊し、大貝全域が冠水しました。これに伴い、馬渕村（現近江八幡市馬淵町）では、2 箇所 400m に渡って決壊し、旅興行者 6 人全員が濁水に吞まれて亡くなりました。また、祖父川では午後 8 時頃弓削地先の新川と合流地点で決壊し、神社の鳥居が半分以上水没するくらい弓削集落が浸水しました。



近江八幡市鷹飼町（日野川）

【昭和 28 年 台風 13 号】

昭和 34 年 8 月の台風 7 号は、14 日未明に伊豆半島に上陸し、その後北上して新潟県を経て日本海へ抜けました。これに伴い、日野川流域において未明から強い雨となり、支川佐久良川において篠原橋が流出し、交通が遮断されるなどの被害が生じました。



竜王町役場前（日野川）

【昭和 34 年 台風 7 号】



近江八幡市鷹飼町（日野川）

【昭和 34 年 台風 7 号】

その1ヶ月後、昭和34年9月26日18時頃、伊勢湾台風が紀伊半島に上陸し、かねてより活発化していた秋雨前線による降雨と相まって、降水量は鈴鹿山系で400～550mmに達しました。8月の台風で決壊した安養寺の日野川の仮堤防は再び決壊し、入町、大貝の全域が内湖の様になりました。また、野洲市小南では協議員、消防団、義勇消防隊が日野川、光善寺川、家棟川の警戒を続け、未曾有の増水に、夜半より仁保橋の切り落ち部と、大貝橋切り落ち部に土俵を積んで必死の警戒が続けられました。しかし、仁保橋が押し流され下流の野村地先で決壊しました。この決壊により元水茎の干拓地が水没、全戸天井まで水没し、町民は牧公民館に避難しました。



小田地先の堤防決壊（日野川）

【昭和34年 伊勢湾台風】



近江八幡市小田町（日野川）

【昭和34年 伊勢湾台風】



元水茎干拓地家屋の水没（日野川）

【昭和34年 伊勢湾台風】



竜王町「田舟で避難」（日野川）

【昭和34年 伊勢湾台風】

昭和40年9月の台風24号は、秋雨前線降雨により河川が増水していたところへの暴風雨であったことから、被害は甚大なものとなりました。日野町日野雨量観測所では13日から17日までの累計雨量が340mmに達し、ピーク時には4時間で142mmの降雨が観測されました。また、周辺に住宅密集地が広がる桐原橋では、計画高水位6.0mを上回る6.3mの水位を観測しました。このため日野川では破堤などにより家屋の一部損壊や床上・床下浸水被害が多数発生しました。特に下流の近江八幡市内では浸水家屋数932戸にのぼり、災害救助法が適用されました。



愛知川町（愛知川）

【昭和40年 台風24号】

近年では、平成 2 年 9 月の台風 19 号で、近江八幡市佐波江町、野村町を中心に護岸欠損、河床洗堀、堤防からの漏水が発生し、沿川住民 7800 人余りが避難しました。



能登川北小学校前（愛知川）  
【平成 2 年 台風 19 号】



近江八幡市鷹飼町（日野川）  
【平成 2 年 台風 19 号】

また、平成 6 年 9 月には、日野川で警戒水位を越えて水位が上昇したため、水防警報が発令され、県・市町をはじめ、地元の水防団が警戒にあたりました。日野川の支川である佐久良川では、河岸が決壊し、日野町は大きな被害を受けました。



東近江市市原野町（蛇砂川）  
【平成 6 年 台風 26 号】

表 2.1.3 日野川における主要な洪水の状況

期間	雨量	被害の概要
昭和 28 年 9 月 24 日～25 日 (台風 13 号)	平地： 100～200mm 山間部： 300～400mm	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬淵村において、2箇所では 400m に渡って決壊し、旅行業者 6 人が濁水に吞まれ全員死亡した。</li> <li>琵琶湖の水位は、1m を越えた。(鳥居川)</li> </ul>
昭和 34 年 8 月 14 日(台風 7 号)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野川の支川佐久良川で篠原橋が流出した。</li> </ul>
昭和 34 年 9 月 26 日～27 日 (台風 24 号)	400～500mm (鈴鹿山系)	<ul style="list-style-type: none"> <li>琵琶湖水位は、彦根で 96cm に到達した。</li> <li>神保橋が流出し、野村地先で堤防が決壊したため、水葦干拓地では、3m の冠水が発生した。</li> <li>野洲町高木で 900 名、中主町比留田で 840 名が集団避難をし、避難後、床上浸水 1.5m に達した。</li> </ul>
昭和 40 年 9 月 13 日～17 日 (台風 24 号)	累計 340mm、4 時間 142mm (日野観測所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>桐原橋では水位が 6.3m に達した。(計画高水位 6.0m)</li> <li>近江八幡市内では、932 戸で家屋浸水が生じた。(災害救助法適用)</li> </ul>
平成 2 年 9 月 19 日～20 日 (台風 19 号)	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>日野川では、通報水位、警戒水位をはるかに越える水位上昇が発生した。</li> <li>近江八幡市の佐波江町、野村町で護岸欠損、河床洗掘、堤防からの漏水が発生し、沿川で 5700 人あまりが避難した。</li> <li>桐原橋では、水位が 6.70m に達した。</li> </ul>
平成 6 年 9 月	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>蛇砂川では天井川部分の堤防が決壊し、佐久良川では河岸が決壊した。</li> <li>桐原橋では、水位が 5.12m に達した。</li> </ul>

### 2.1.4 主な洪水における降雨量と河川水位について

昭和 57 年 8 月洪水、平成 2 年 9 月洪水、平成 6 年 9 月洪水、平成 7 年 5 月洪水の流域平均雨量と桐原橋の水位の時系列図を以下に示します。これらの洪水では時間雨量がピークに達した 2～3 時間後に桐原橋の観測水位がピークに達しています。

昭和 57 年 8 月洪水では、ピーク時間雨量 17.7mm、24 時間累計雨量 187.0mm、ピーク水位は 5.83m、平成 2 年 9 月洪水では、ピーク時間雨量 25.9mm、24 時間累計雨量 167.2mm、ピーク水位は 6.50m で、どちらも氾濫危険水位を超えました。平成 6 年 9 月洪水では、ピーク時間雨量 25.1mm、24 時間累計雨量 117.7mm、ピーク水位は 5.03m、平成 7 年 5 月洪水では、ピーク時間雨量 19.7mm、24 時間累計雨量 149.3mm、ピーク水位は 4.20m で、いずれも避難判断水位を超えました。

上記の 4 つの洪水のうち、2.1.3 に示したとおり、平成 2 年 9 月洪水と平成 6 年 9 月洪水では、日野川沿川で大きな被害が生じました。平成 6 年 9 月洪水では、日野川の支川である佐久良川の堤防が決壊しています。

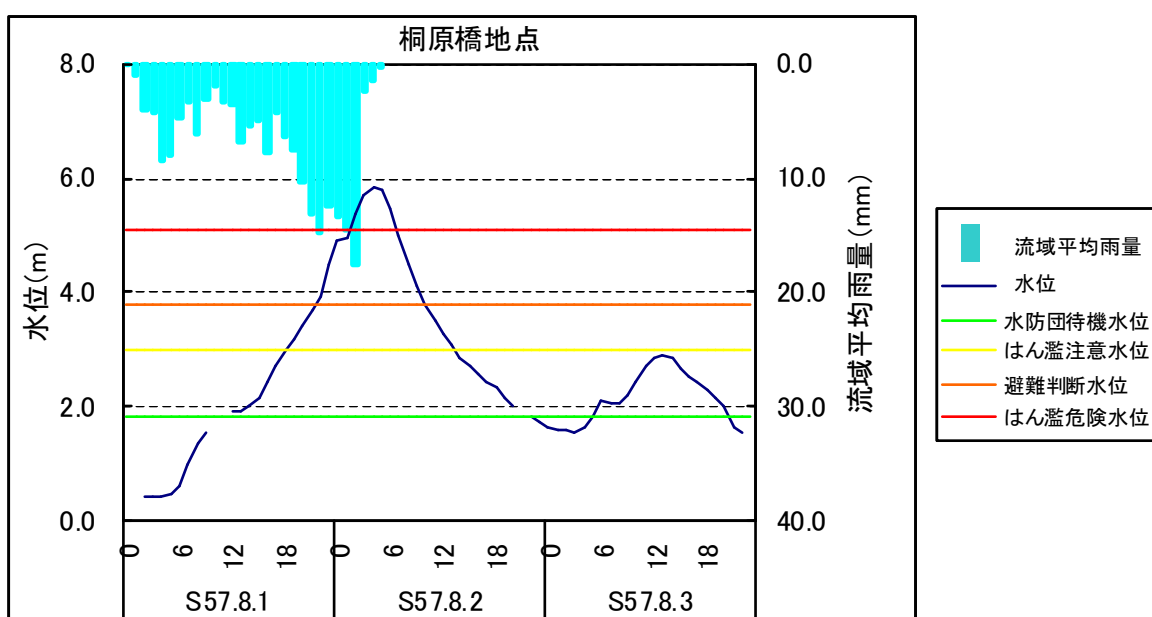


図 2.1.14 桐原橋の水位と流域平均雨量の時系列変化図（昭和 57 年 8 月洪水）

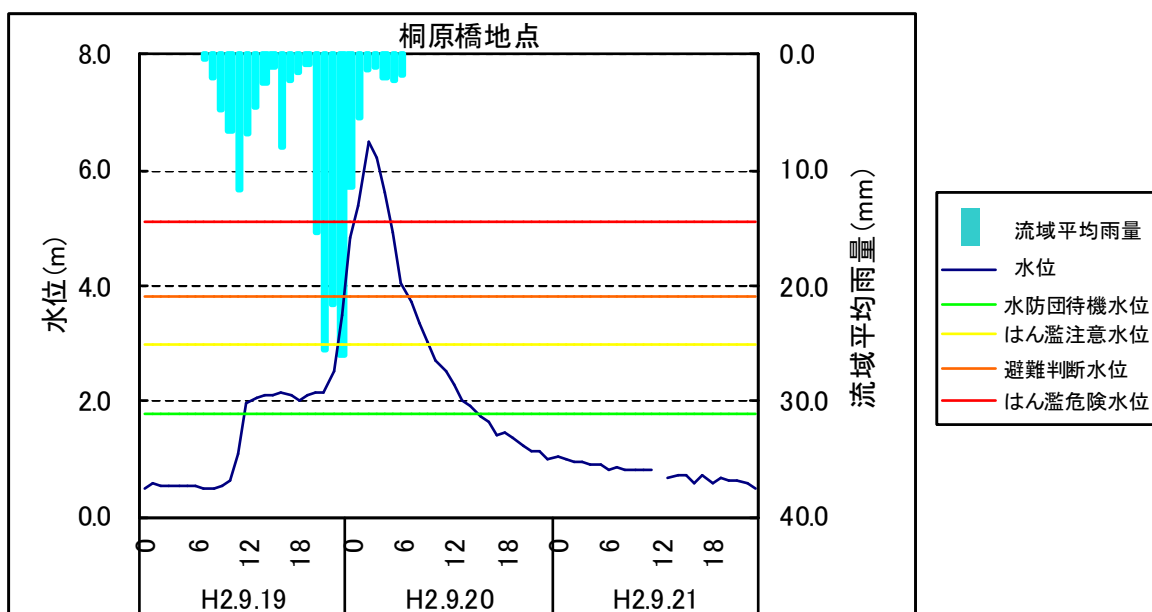


図 2.1.15 桐原橋の水位と流域平均雨量の時系列変化図（平成 2 年 9 月洪水）

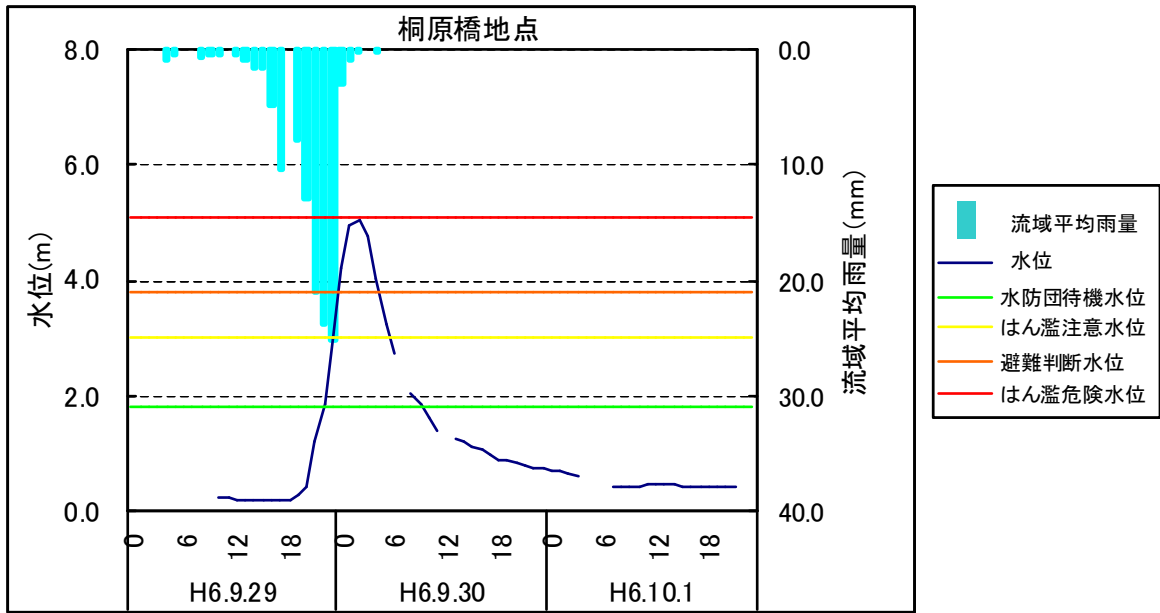


図 2.1.16 桐原橋の水位と流域平均雨量の時系列変化図（平成 6 年 9 月洪水）

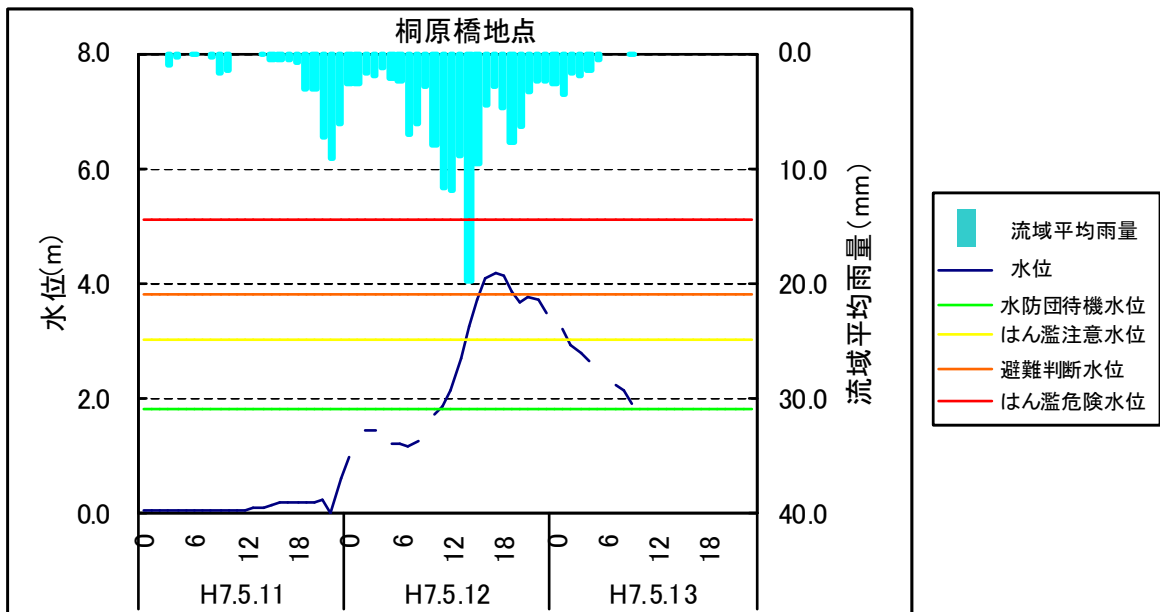


図 2.1.17 桐原橋の水位と流域平均雨量の時系列変化図（平成 7 年 5 月洪水）

## 2.2 日野川中流左岸地区の特性

### 2.2.1 地形

日野川中流左岸地区は、日野川の支川善光寺川合流点から支川佐久良川合流点までの約 12km 区間にわたる左岸側の範囲とします。

集落の中でも、西横関、須恵、葛巻、弓削、薬師、小口、川上、橋本、信濃は、水害が発生した際に、内水浸水の発生しやすい集落となっています。その中でも、西横関は、善光寺川と日野川の堤防に囲まれて特に浸水が生じやすい地形となっています。同様な集落として、弓削は、祖父川と日野川、葛巻は法教寺川と日野川の堤防に囲まれています。

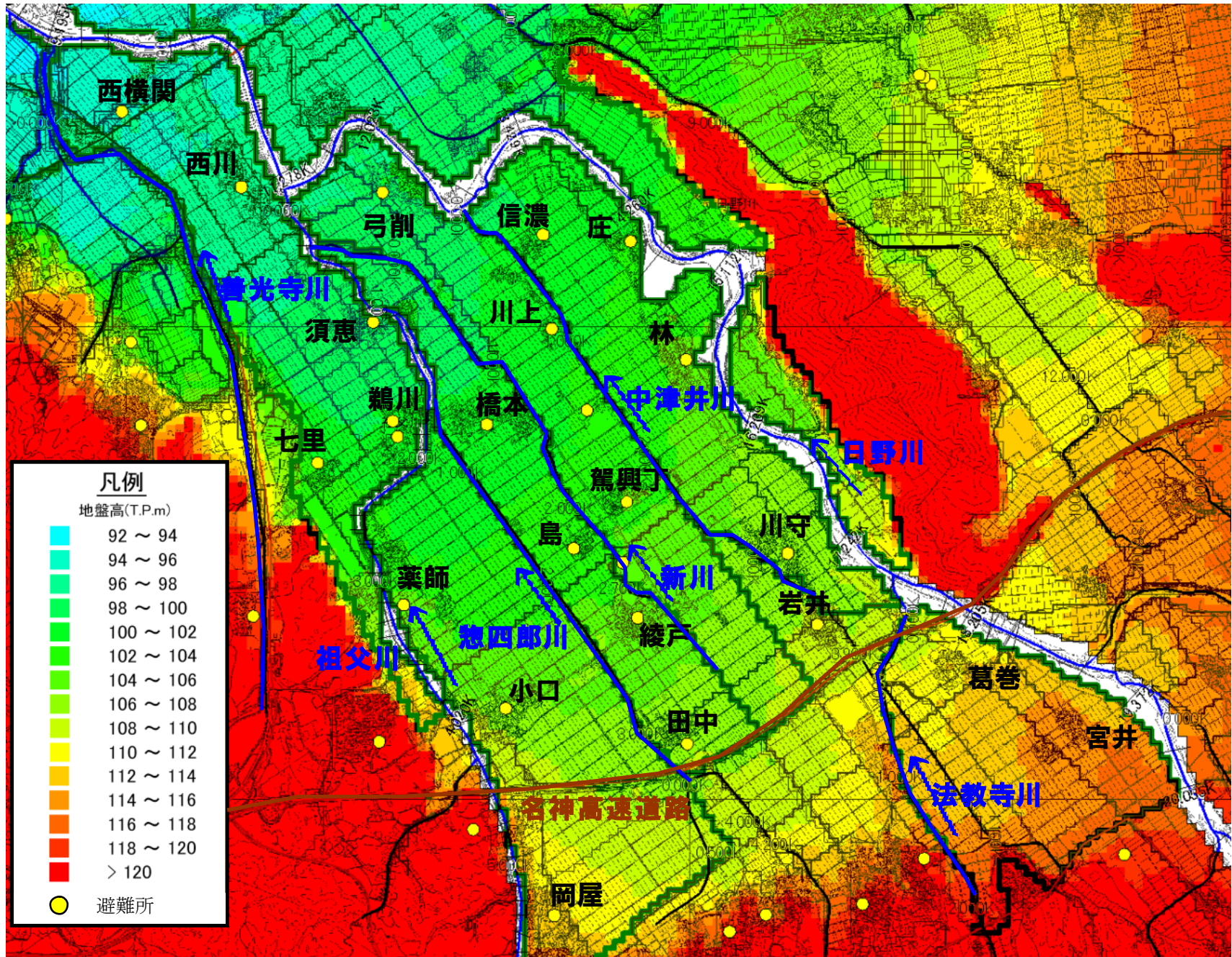


図 2.2.1 日野川中流左岸地区の地形特性及び集落と避難所位置図